

科学技術指標 2009 の公表について

科学技術政策研究所では、我が国の科学技術活動を客観的・定量的データに基づき体系的に分析する科学技術指標を作成いたしました。

日本の論文数(2005-2007 年平均)は「世界の論文への関与度」では米、中に続き、世界第 3 位であり、英、独と同程度です。一方、「世界の論文の生産への貢献度」でも第 3 位ですが、英、独より世界シェアで約 1%高くなっています。

また、日本の 3 極特許庁への特許出願数は継続的に増加傾向にあり、ナノテク、情報通信技術のシェアが大きいことがわかりました。

今回の「科学技術指標 2009」は、全体の構成を見直し、原則として毎年データ更新され、時系列の比較あるいは主要国間の比較が可能な項目に絞り込むことにより、できるだけシンプルな構成にするとともに、関連するデータやいくつかの切り口から作られた図表が一つの場所に集まるように工夫しました。さらに、データの整合性を一層高め、同時にデータの解釈などをよりわかりやすいものにしました。

また、必要に応じ、グラフに「国際比較注意」「時系列注意」という注意喚起マークを添付しました。具体的な注意点は図表の注記に記述しました。

アウトプットに関する日本の特徴は次のとおりです。

(その他全体の傾向等は別紙(要旨)をご覧ください)

- 日本の論文数(2005-2007 年の平均)は、「世界の論文への関与度(整数カウント)」では米国、中国に続き世界第 3 位であり、イギリスやドイツと同程度です。一方、「世界の論文の生産への貢献度(分数カウント)」では、順位は同様に 3 位ですが、イギリス、ドイツに世界シェアで約 1%の差を付けています。
- 日本特許庁、米国特許商標庁、欧州特許庁への特許出願数をみると、10 年前から引き続いて、日本は大きな存在感を示しています。技術分野別の出願状況をみると、日本はナノテクノロジーや情報通信技術におけるシェアが大きいことがわかりました。
- 米国の技術貿易収支比は、長期的に低下傾向にあり、2001 年度以降日本を下回り、2006 年では 2.12 の出超となっています。しかしながら、技術力の指標としてより適切と考えられる系列会社間を除いた技術貿易収支については、米国が日本を大きく上回っています(米国の関連会社以外 3.7 に対して日本の親子会社以外 1.1)。

※ 本報告書につきましては、科学技術政策研究所ホームページ

(<http://www.nistep.go.jp/index-j.html> の「報告書」欄)に掲載されますので、そちらで入手することが可能です。

(お問い合わせ)

科学技術政策研究所 科学技術基盤調査研究室

担当: 神田

TEL: 03-6733-4910(直通) FAX: 03-3503-3996

E-mail: indicat@nistep.go.jp